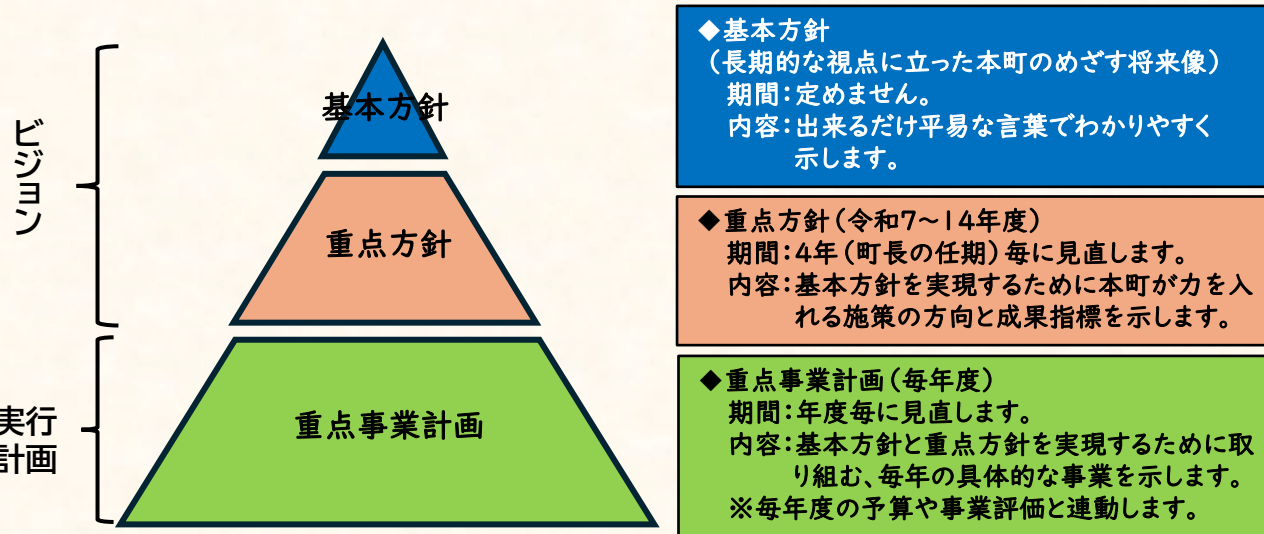


第三次安芸太田町長期総合計画 安芸太田町総合ビジョン

令和7(2025)年度～令和14(2032)年度

総合ビジョンの構成と期間



安芸太田町では、これからの8年間のまちづくりの方向性を示す総合ビジョンをつくりました。このビジョンは、将来のめざす姿を「太田川とともに、暮らし、学び、未来に向けて一人一人が活躍するまち」と定め、その実現に向けた取組みを示したものです。

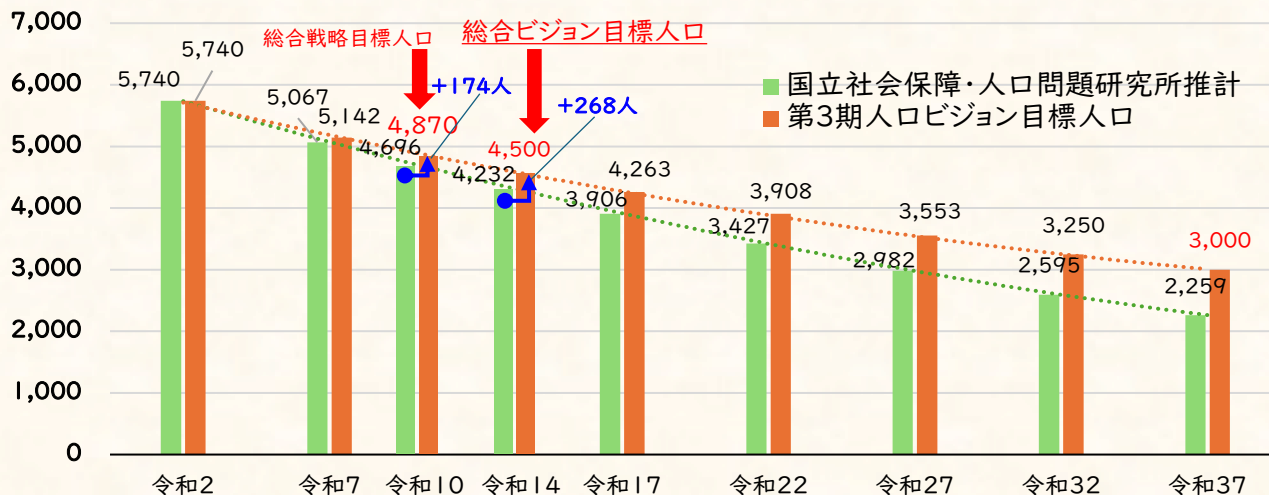
この計画の実現は、町民の皆様の参画があって初めて成り立ちます。計画の内容をご理解いただき、まちづくりへの関わり方について、考えるきっかけにいただければ幸いです。

将来人口の展望(人口ビジョン)



人口減少をゆるやかなものにし、8年後の令和14年の人口を4,500人を目標とします。

第3期まち・ひと・しごと総合戦略目標人口	令和10年(2028年)	4,870人
総合ビジョン目標人口	令和14年(2032年)	4,500人
第3期人口ビジョン目標人口	令和37年(2055年)	3,000人



めざす姿(基本方針)

太田川とともに、暮らし、学び、未来に向けて一人一人が活躍するまち

安芸太田町の強みでもあり、町名の由来でもある太田川を中心とした森林や田園など四季折々の美しい自然環境を守り、その自然を活かした農林水産業や、自然を体験・体感する観光業などの産業が栄え、デジタルの力も使いながら、自然の中で学び、暮らし続けることを魅力とするまちをめざします。

また、人口が少ないからこそ、様々なことに挑戦できる可能性が広がり、町民一人一人が主役となって活躍し、次世代や未来につながる持続可能なまちをめざします。



基本方針

重点方針

関連施策

太田川とともに、未来に向けて一人一人が活躍するまち
未来に向けて一人一人が活躍するまち
未来に向けて一人一人が活躍するまち

①人口減少の抑制 (社会増をめざす)

持続可能な人口を維持するため、社会増減に着目し、本町の強みを伸ばす(魅力の向上)とともに弱みを改善(生活利便性の向上)することで、移住者の増加と転出者の抑制による社会増をめざします。

②人づくりの推進

自然の豊かさや伝統文化の継承といった本町の強みを活かし、多様な価値観や能力を持った人材が、生涯を通じて活躍できる「人づくり」の町「安芸太田」をめざします。

③DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

デジタル技術を積極的に取り入れることにより、地理的条件の不利や人手不足を克服し、様々なサービスをより高い水準で提供できる、中山間地域のモデル地区をめざします。

1 住環境整備による暮らしやすさの向上

定住促進賃貸住宅や空き家を活用した住環境整備により、子育て世代をはじめとした移住・定住を促進します。



2 新生「道の駅 来夢とごうち」を核とした観光まちづくりの推進

「道の駅 来夢とごうち」再整備事業に併せて、体験型観光等の内容を充実させ、観光客の増加をめざすとともに、産直市の活性化や地域特産品の生産・開発支援により産業の振興と雇用の促進を図ります。



3 あんしん・子育てParkあきおおたの実現

安芸太田町子ども子育て支援事業計画の基本理念である「あんしん・子育てParkあきおおた」の実現により、子ども達のがびのび育つ環境を作るだけでなく、親世代も子育てや仕事、様々な分野で活躍できる環境を作ります。



4 生活サポートの仕組みづくりによるコミュニティの維持

小規模かつ高齢化が進む集落等において、買い物やゴミ出しなどの日常生活を支援する持続可能な仕組みを検討し、住み慣れた場所で暮らし続けることができるコミュニティをめざします。



5 太田川の自然と調和した快適な環境づくり

太田川の清流復活を目指した取組を開始し、河川氾濫等の災害に強いまちづくりにも配慮しつつ、本町の魅力向上と、住民の本町への誇りを育みます。



1 新・教育大綱の具体化と「森のようちえん」構想の推進

本町の子どもたちが、好奇心にあふれ、豊かな感性と自分で考える力を備えることができるよう、令和6(2024)年7月に策定した新たな教育大綱の内容の具体化を進めます。とりわけ、森のようちえん構想の実現に取り組みます。



2 地域資源を活かした産業の担い手育成

本町の約9割を占める森林や、農地を活かした第一次産業の担い手について、積極的に支援を行い、育成に努めます。また、森林セラピーやウォーターアクティビティ、サイクリング等の新たな観光の担い手とガイド等の育成に取り組みます。



3 広島県立加計高等学校の支援

全国から集まった加計高校に通う生徒の成長を引き続き応援します。特に、加計高校生徒のまちづくりへの主体的な参画を促し、生徒も住民も双方が成長する取組を進めます。



4 いつまでも元気で暮らすための健康づくり活動の推進

「健康のまち」宣言のもと、引き続き関係機関と連携し、ウォーキング事業などの健康づくりや運動習慣づくりを目的とした事業を進め、全ての世代の健康寿命の延伸をめざします。



1 morica(もりか)の活用推進

地域通貨「morica」の更なる利用を促進し、地域経済を活性化します。また、住民の利便性向上のため、moricaアプリを活用した情報発信や機能を強化するとともに、普及拡大に取り組みます。



2 公共交通の利便性向上と持続可能性の確保

デマンド交通システム「もりカー」の効率的な運行の実施と、町内バスを含めた最適な公共交通網を継続的に検討します。また、持続可能な公共交通網を実現するために、自動運転等の先端技術の導入についても検討します。



3 ICT活用による「学び」の充実

GIGAスクール構想に基づき、継続したICT環境の拡充による教育活動を推進します。また、スマホ教室、パソコン教室等を実施し、全ての住民がデジタル機器やインターネット上の情報を正しく安全に扱えるまちをめざします。



成果指標 [現状]➡[目標]

30代・40代の人口(総人口に占める割合)
[744人(13.7%)]➡[640人(14.2%)以上]

観光消費額
[11.9億円] ➡ [16.0億円]

この地域で子育てがしたいと思う親の割合
[83.8%] ➡ [95.0%]

小規模集落(50人未満)の世帯数
[309世帯] ➡ [280世帯]

太田川の水質レベル
[A] ➡ [AA]

ひろしま自然保育認証取得数
[0園所] ➡ [全園所(4園所)]

農林業従事者数(認定農業者等・
独自小規模出荷農業者・林業従事者)
[93人] ➡ [127人]

加計高生のボランティア参加延べ人数
[475人/年] ➡ [525人/年]

健康寿命
[男性77.82歳:女性84.23歳]
➡ [男性79歳 : 女性85歳]

moricaアプリダウンロード数
[1,248人] ➡ [3,200人]

町内公共交通の一人当たりの利用回数
[6.9回/年] ➡ [8回/年]

「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合
[小学生91.4%:中学生91.1%]
➡ [小学生100%:中学生100%]